

(報告)「わが国の経営学大学院教育のあり方について
～高度専門職業人教育を中心にして～」

1 現状及び問題点

大学院で学ぶ社会人が増えている。経営系専門職大学院に至っては大学院生の 90%が社会人である。

経営系専門職大学院を含むわが国の経営学大学院における高度専門職業人教育は、5つの課題

- ① 欧米に比して規模が小さいため幅広い領域で多様な教育の推進が難しい
- ② 産業界等との連携不足で大学院教育の価値を十分伝え切れていない
- ③ 外国語で行う講義が少ないなどグローバル化への対応が遅れている
- ④ 制度面で高度専門職業人養成の位置付けが不明確である
- ⑤ 経営学大学院同士の連携ネットワークが脆弱で、国内経営学大学院全体で課題解決を組織的に取り組む体制がない

を抱えている。

2 提言の内容

(1) 規模拡大、個性化、プログラムの多様化の推進

社会や産業界は、個人の専門的能力やキャリアを重視する評価や処遇を行うなど、より多くの人材が経営学大学院を目指す環境を作り出す。経営学大学院は、統合・提携などにより規模を拡大し、それぞれの強みを活かした多様なカリキュラムを打ち出す。

(2) 産業界等との連携強化を推進

経営学大学院は産業界等とより緊密な連携を進め、産業界等がカリキュラム編成や講義に直接的かつ継続的に深く関わる状況を作り出す。

(3) グローバル化対応力を育む教育の推進

経営学大学院は、専門科目の英語での開講に加え、留学生受け入れ、外国人教師・職員の雇用、海外大学との共同授業など、経営学大学院の日常すべてをグローバル化する。また、国際認証を通して国際通用性を確保する。国はこれらを政策的に支援する。

(4) 専門職大学院制度の見直しと DBA の創設

現行制度を抜本的に見直し、大学院を研究者養成と高度専門職業人養成に再整理する。併せて高度専門職業人養成に特化した専門職博士課程(仮称:DBA)を創設する。

(5) 経営学大学院間のネットワーク構築

経営学大学院の社会的地位の向上と修了生のキャリアパス確立のため産業界等と対話する組織として、経営学大学院間のネットワークを構築する。国はこれを側面から支援する。